

1. 20年の経過による生活程度の意識変化

(1) 「中の中」が20年経過で6割から5割弱に減少

本調査では、自分の生活程度が世間一般からみて、「上」「中の上」「中の中」「中の下」「下」のどれに入ると思うかを尋ねている。

ここでは45～55歳の女性696人を対象に、20年前（1994年）と現在（2014年）の2時点から生活程度の意識を比較した。

図表1-1は、1994年と2014年の生活程度の意識の分布である。生活程度が「上」と回答した人はいずれの時点においても非常に少なく、また「下」と回答した人も5%以下にとどまっている。最も多いのは「中の中」であるが、1994年では6割以上を占めていたものの、2014年では5割弱になっている。1994年・2014年両方で「中の中」と回答した人は、全体の35.9%であった。一方、1994年に比べて増加したのは「中の下」と回答した人で、約10%ポイント増えている。

生活程度の意識は「中の中」が依然として多数を占めているが、20年を経て、若かった頃よりも低く感じる人が出てきていることがわかる。

図表1-1 1994年と2014年の生活程度の意識

1994年 (25～35歳)	2014年 (45～55歳)
上 0.3%	上 0.3%
中の上 13.1%	中の上 14.8%
中の中 62.5%	中の中 48.6%
中の下 21.1%	中の下 31.3%
下 3.0%	下 5.0%

(対象：1994年～2014年に継続して回答している696人)

(2) 「中の中」の3割が20年後は「中の下」へ

次に、1994年に最多数だった「中の中」と回答した人たちが、20年後に「中の中」と回答しているのか、それとも他の回答をしているのか、その変化を調べた。

図表 1-2 は、1994年に25～35歳だった女性696人のうち、1994年に自分は「中の中」に属すると答えた人435人が、2014年に「中の中」と変わらず回答したのか、それともより上（「上」または「中の上」）・より下（「中の下」または「下」）と回答するようになったのかを調べた結果である。

1994年に「中の中」と回答したのは435人（全体の62.5%）だったが、2014年にも変わらず「中の中」と回答したのは、そのうち57.5%（250人）だった。一方、1994年に「中の中」と回答したが、2014年に「中の上」や「上」と回答したのは12.0%（52人）、「中の下」や「下」と回答したのは30.6%（133人）であった。

当初自分が「中の中」に入ると感じていた人たちの過半数は、20年経過後も「中の中」であると感じている。3割の人たちはより下の方に入ると感じるようになっており、上の方に入ると感じるようになった人は1割強にとどまっている。なお、「中の中」から下の評価となった人も、その多く（85.7%）は「中の下」になったという人であり、「中」の内部で相対的に下の方に入ると感じる人が増えたようである。

図表 1-2 「中の中」からの生活程度の意識の推移

